



中期経営計画

2026-2030



愛知県道路公社
Aichi Prefectural Road Public Corporation



はじめに ～ 中期経営計画（2026-2030）の策定にあたり ～



経営理念

愛知県道路公社は、安全で安心して利用できる道路サービスを提供するため、常に安全性・快適性・利便性の向上を目指し、地域社会と産業経済の発展に貢献します。

地方道路公社法に基づき、1972年5月に愛知県により設立された当社は、愛知県から道路整備特別措置法に基づく「多米峠有料道路」始め3路線、旧愛知県開発公社から道路運送法に基づく「三ヶ根山スカイライン」始め4路線を引継ぎ、有料道路事業の経営を始めました。

その後、旧日本道路公団から知多半島道路を引継ぎ、さらには、当社自らの事業として多くの有料道路の新設、改築等を行ってまいりましたが、2016年10月に、民間事業者へPFI法に基づく公共施設等運営権を付与する「愛知県有料道路運営等事業（有料道路コンセッション）」を全国に先駆けて開始しました。

現在は、民間事業者（運営権者）と連携し、従前の管理水準やサービスを保ちながら、民間ならではの創意工夫により、効率的な管理運営を継続しています。

私たち公社は、設立以降、時代の要請に応じてかたちを変えながら、地域の人々の暮らし、社会の営みを、有料道路を通して支えてまいりました。

社会環境が著しく変化する中、その一つひとつの課題に真摯に向き合い対応し、生活の基盤を支えるインフラに関わる者としての責任とプライドを持ち、この先も皆さまからの期待に応えながら共に歩んでまいります。

2026年3月

愛知県道路公社理事長

目次

第1 現計画（2021－2025）の振り返り

位置付け～重点施策及び具体的な取り組みの成果..... 1

第2 中期経営計画（2026－2030）

位置づけ～公社を取り巻く社会環境の変化～目指す姿..... 2

第3 主要施策

3つの視点から導いた7つの重点施策のもとで取り組む12の項目..... 3

視点1 有料道路コンセッション

1) 適切なモニタリング

【取組項目①】 KPI（重要管理指標）による評価及び支援..... 4

【取組項目②】 任意事業の早期実現に向けた支援..... 5

視点2 社会的課題

2) ネットワークの整備

【取組項目③】 大府西インターチェンジ出口の渋滞対策..... 6

【取組項目④】 西知多道路の整備促進..... 7

3) メンテナンスの強化

【取組項目⑤】 橋梁、トンネルの大規模更新・修繕の検討..... 8

4) 災害時の対応力強化

【取組項目⑥】 交通管制システムの災害時機能強化..... 9

【取組項目⑦】 衣浦トンネルの災害時機能強化..... 10

視点3 経営基盤

5) 持続可能な組織づくり

【取組項目⑧】 働き方改革・ウェルビーイングの推進..... 11

【取組項目⑨】 DXの推進による生産性の向上..... 12

【取組項目⑩】 人材の確保と育成の推進..... 13

6) 財務の安定化

【取組項目⑪】 三ヶ根山スカイラインの経営改善..... 14

7) 健全な財務基盤の維持

【取組項目⑫】 償還準備金の着実な積み立て..... 15

第1 現計画（2021－2025）の振り返り

位置づけ

全国初の有料道路コンセッションを開始後、新しい形態の有料道路事業を手探りで進めるなか、公社の立場となすべきことを明確にし、運営を軌道に乗せるための基礎を固める計画

重点施策及び具体的な取り組みの成果

■ 7つの重点施策

1 安全・快適性の向上

- ▶ 大府PA（下り）の新設 [22年5月]
- ▶ 阿久比PA（上り）の新設 [26年3月]

2 地域を支える道路基盤の整備

- ▶ 武豊北ICの新設 [26年2月]
- ▶ 大府PA（上り）の外部利用 [22年12月]

3 災害時の道路機能の継続

- ▶ 交通管制システムの防災対策の検討に着手 [22年度着手（継続）]

4 道路基盤の長寿命化

- ▶ 橋梁床版防水工事の完了 [26年2月]

5 有料道路コンセッションの推進

- ▶ モニタリング手法の改善 [24年3月]

6 道路運送法に基づく自動車道路事業の利用促進

- ▶ フォトコンテストの開催 [25年6月]

7 経営基盤の強化

- ▶ 交通指令業務マニュアルの更新 [23年3月]

継続と新たに取り組む施策

次期計画（2026－2030）へ

第2

中期経営計画（2026－2030）

位置づけ

現計画で備えた力により、取り巻く環境の変化に臨機に対応しながら、有料道路コンセッションの先駆者を自覚し、地力を高めるとともに、新たに事業着手した路線の早期完成を目指して建設を促進し、将来につながる持続可能な運営の方向性を見出す計画



公社を取り巻く社会環境の変化

- 人口減少、少子高齢化による生産人口の減少
- 働き方に対する意識の変化・多様化
- デジタル化の進展
- SDGs(持続可能な開発目標)の浸透
- 自然災害の頻発化・激甚化
- 脱炭素社会の進展
- 物価・金利上昇がもたらす経営負荷の増大

- インバウンド需要の変動リスク
- インフラ施設の老朽化

外部政策の進捗

- ✓中部国際空港の代替滑走路の整備
- ✓中部国際空港エリアにおけるIR誘致
- ✓名古屋三河道路の計画推進

環境の変化に臨機に対応し持続的な成長を目指す

目指す姿

3つの視点で経営を深化し、すべてのステークホルダーに輝く未来を届ける



第3

主要施策

3つの視点から導いた7つの重点施策のもとで取り組む12の項目

視点1 有料道路コンセッション

1) 適切なモニタリング

【取組項目】

- ① KPI（重要管理指標）による評価及び支援
- ② 任意事業の早期実現に向けた支援

視点2 社会的課題

2) ネットワークの整備

【取組項目】

- ③ 大府西インターチェンジ出口の渋滞対策
- ④ 西知多道路の整備促進

3) メンテナンスの強化

【取組項目】

- ⑤ 橋梁、トンネルの大規模更新・修繕の検討

4) 災害時の対応力強化

【取組項目】

- ⑥ 交通管制システムの災害時機能強化
- ⑦ 衣浦トンネルの災害時機能強化

視点3 経営基盤

5) 持続可能な組織づくり

【取組項目】

- ⑧ 働き方改革・ウェルビーイングの推進
- ⑨ DXの推進による生産性の向上
- ⑩ 人材の確保と育成の推進

6) 財務の安定化

【取組項目】

- ⑪ 三ヶ根山スカイラインの経営改善

7) 健全な財務基盤の維持

【取組項目】

- ⑫ 償還準備金の着実な積み立て

視点1 有料道路コンセッション

適切なモニタリング

【取組項目①】

KPI（重要管理指標）による評価及び支援

 3 付帯に 確保と確保	 9 道路に 確保と確保	 11 道路に 確保と確保	目 標	達成率 70%以上【毎年度】
-----------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----	----------------

維持管理業務についてKPI（重要管理指標）を用いて評価するとともに、運営権者への助言により安全で安心な道路の運営及び利用者サービスの向上に取り組みます。

$$\text{※達成率（\%）} = \text{目標達成項目数} \div \text{全項目数（KPI 項目数）} \times 100$$

（参考） 2025年度アセットマネジメント目標

項 目	KPI (重要管理指標)	管理項目	2025年度 目標値
道路構造物の適正な 保全率の確保	快適走行路面率	自専道MCIランクIV,III,IIの割合	99.6%
	橋梁の保全率	健全度区分I, IIの割合	96.7%
	トンネルの保全率	健全度区分I, IIの割合	83.3%
	函渠の保全率	健全度区分I, IIの割合	94.9%
	法面の保全率	健全度区分I, IIの割合	99.7%
	擁壁の保全率	健全度区分I, IIの割合	100.0%
適切な交通流の確保による 事故の低減	本線渋滞損失時間の削減	本線渋滞損失時間（台・時間）	18,000
	死傷事故率の削減	死傷事故率（件/億台キロ）	4.6
	逆走事案の削減	逆走事案（件）	10
	人等の立入事案件数の削減	人等の立入事案件数（件）	60
適正な工事管理水準の確保	路上工事の車線規制時間	工事による規制時間（時間）	4,500

視点1 有料道路コンセッション

適切なモニタリング

【取組項目②】

任意事業の早期実現に向けた支援

			目 標	連絡会議【月に1回】 業務報告会【半年に1回】 協議会【年に1回】
-----------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------	-----	-----------------------------------

モニタリングレベルに応じた複層構造の会議体や実務担当者からなるワーキンググループを定期的に行い、有料道路コンセッション開始時に運営権者の構成企業から提案された沿線開発等による地域経済の活性化事業（任意事業）の早期実現を図ります。

■任意事業

- 阿久比PA上り連結型事業「愛知多の大地」
- 中部臨空都市（空港島）国際ブランドホテル事業
- 物流の拠点化事業～地域産業連携型 物流事業～
- メタン発酵バイオガス発電事業

視点2 社会的課題

ネットワークの整備

【取組項目③】

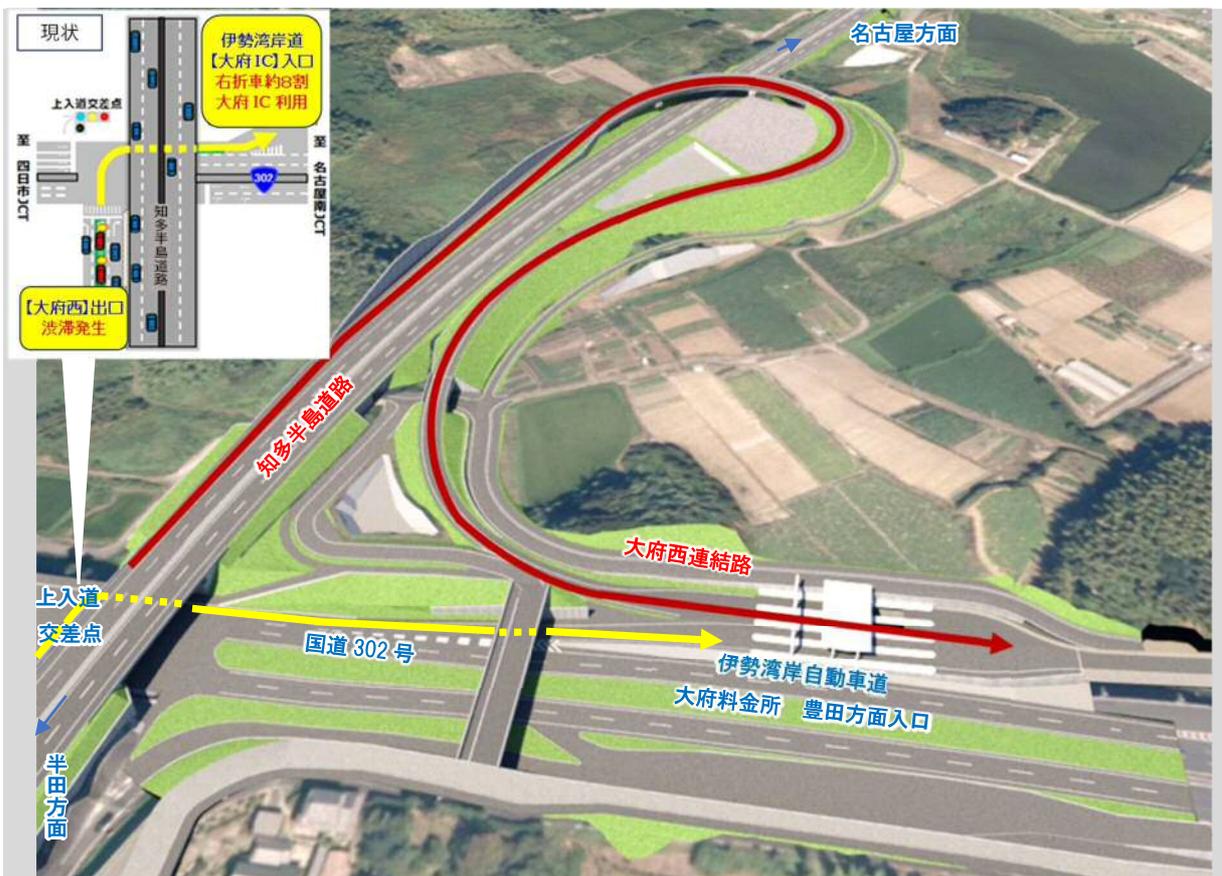
大府西インターチェンジ出口の渋滞対策



目標

大府西インターチェンジ出口の渋滞を緩和するため、知多半島道路（上り線）と伊勢湾岸自動車道（豊田方面）を立体構造で直結する大府西連結路を整備します。

地権者の協力を得て事業用地の取得を速やかに進めるとともに、関係機関との調整により早期の工事着手、整備を目指します。



渋滞状況



半田方面から上入道交差点を望む



名古屋方面から大高料金所を望む

視点2 社会的課題

ネットワークの整備

【取組項目④】

西知多道路の整備促進



目標

西知多道路は、「中部国際空港」と「伊勢湾岸自動車道」を連絡し、名古屋都市圏の自動車専用道路網と一体となることで、知多地域の交通の円滑化、更には空港アクセスのダブルネットワーク化により、中部国際空港との連絡強化、安全で確実な物流の支援などに寄与する延長18.5kmの高規格道路です。このうち新たにバイパスとして整備する長浦JCT（仮称）から常滑JCT（仮称）までの有料道路事業区間9.0kmの舗装、設備等の整備を、国や愛知県の実施する公共事業とともに進めています。

これまでに有料道路設備の設計や関係機関との調整のほか、一部工事にも着手しており、引き続き西知多道路の整備を促進します。



視点2 社会的課題

メンテナンスの強化

【取組項目⑤】

橋梁、トンネルの大規模更新・修繕の検討

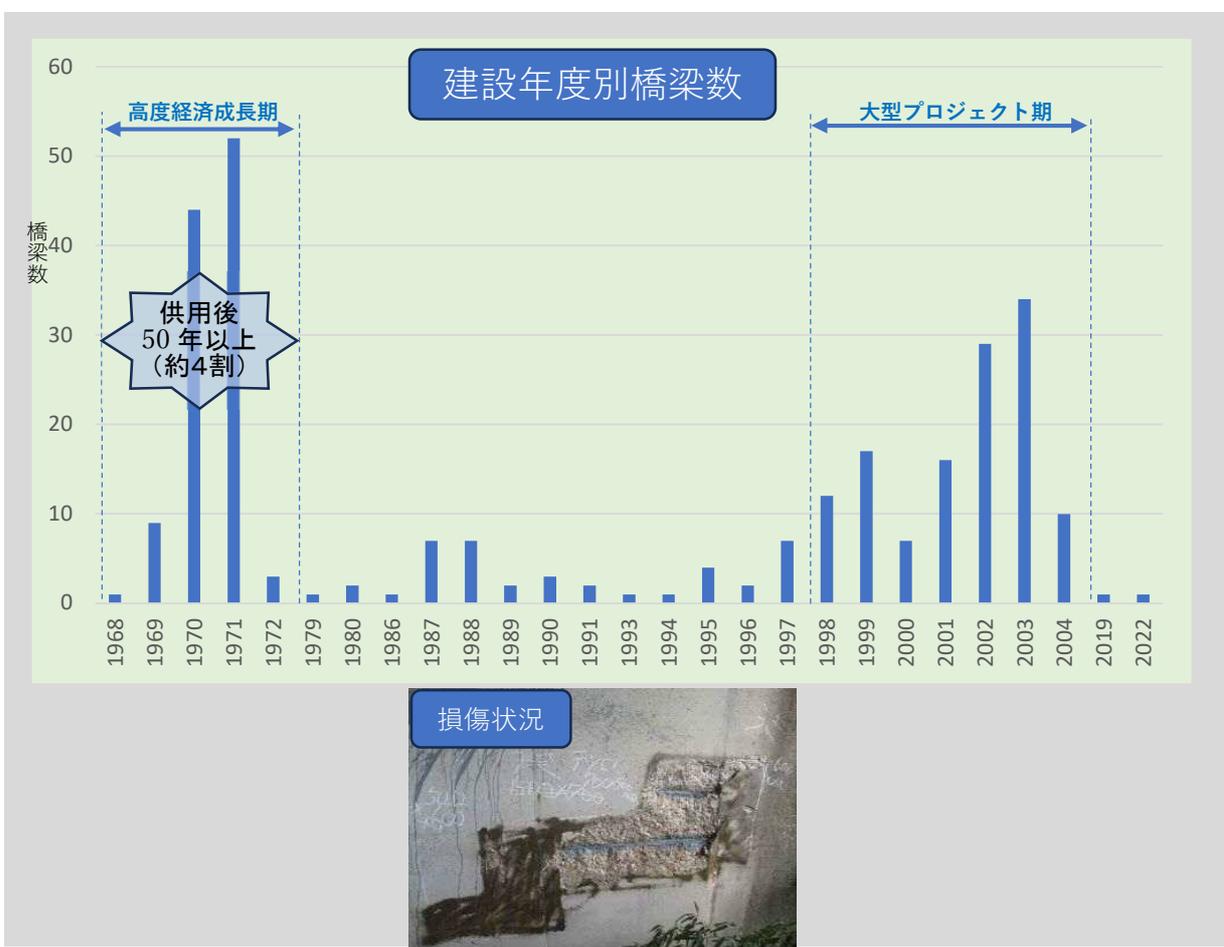


目 標

取組の方向性整理【2030年度】

公社が管理する橋梁は、高度経済成長期と2005年愛知万博などの大型プロジェクト期の2つの時代に集中的に整備されました。これまで点検、診断、措置及び記録による予防保全に努めてきましたが、供用後50年以上経過する橋梁が今後も増加するなか一部の橋梁において著しく老朽化が進行していることから、橋梁やトンネルの大規模更新・修繕が求められています。

このため、これまでの目視による定期点検結果に加え、老朽化や損傷が進行した橋梁において化学的試験等を追加するとともに劣化予測を行うなど、大規模更新・修繕を視野に入れメンテナンスの強化に取り組みます。



視点2 社会的課題

災害時の対応力強化

【取組項目⑥】

交通管制システムの災害時機能強化



目 標

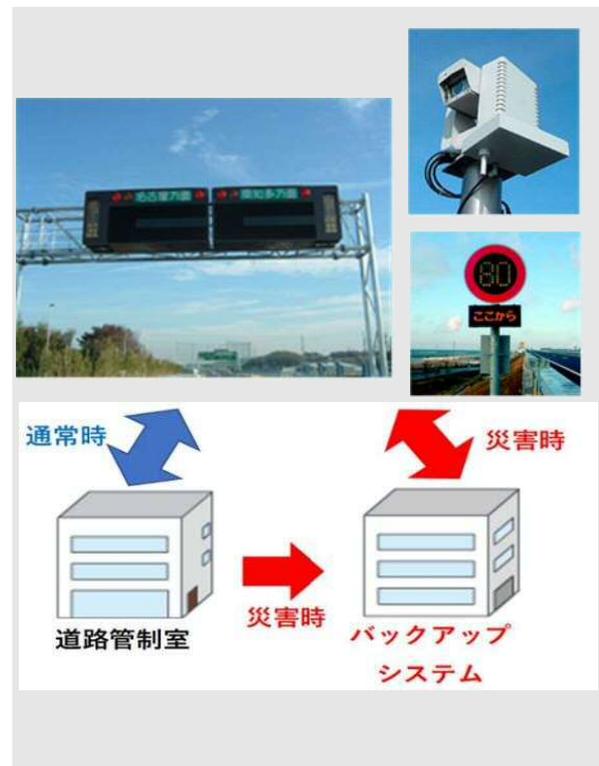
整備完了【2030年度】

大規模地震が発生した際に交通管制業務が継続運用できるよう、交通管制機器の耐震性強化を実施するとともに、交通管制システムの多重化について検討し、必要な措置を進めます。

交通管制機器の耐震性強化(イメージ)



交通管制システムの多重化(イメージ)



視点2 社会的課題

災害時の対応力強化

【取組項目⑦】

衣浦トンネルの災害時機能強化



目 標

整備完了【2029年度】

衣浦トンネルは重要港湾である衣浦港を横断し、西三河地域と知多地域を結ぶ重要な幹線道路であるとともに、災害発生時に救援活動や支援物資の輸送などを担う緊急輸送道路でもあります。

また、能登半島地震(2024年1月)を機に、国が耐震性や復旧性を備え災害時に機能するネットワーク整備を緊急提言したことから、衣浦トンネルの災害対策の現状を踏まえ被災後、早期の復旧が可能となる構造を確保する擁壁部の補強や液状化対策及び排水ポンプの耐水化、浸水防止構造の構築、電気設備の地上化等の対策を実施します。



視点3 経営基盤

持続可能な組織づくり

【取組項目⑧】

働き方改革・ウェルビーイングの推進

		目 標	導入実施【2030年度までに順次実施】
-----------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------	-----	---------------------

時間外勤務を縮減し、年次休暇の計画的な取得促進と柔軟な働き方を推進することで、職員のワーク・ライフ・バランス向上を図り、誰もが働きやすい職場づくりに取り組みます。

1 働き方・休み方改革

- ✕ 育児・介護との両立を始め、柔軟な働き方を可能とする職場環境整備を進めます。（在宅勤務制度、選択的週休3日を可能とするフレックスタイム制及び勤務間インターバル制度の導入など）

2 健康で豊かな生活時間の確保

- ✕ 年間16日以上の子年次休暇の計画的な取得を促します。
- ✕ 時差勤務制度の拡充を図ります。



※ウェルビーイング：身体的・精神的・社会的に良好な状態にあること。

視点3 経営基盤

持続可能な組織づくり

【取組項目⑨】

DXの推進による生産性の向上

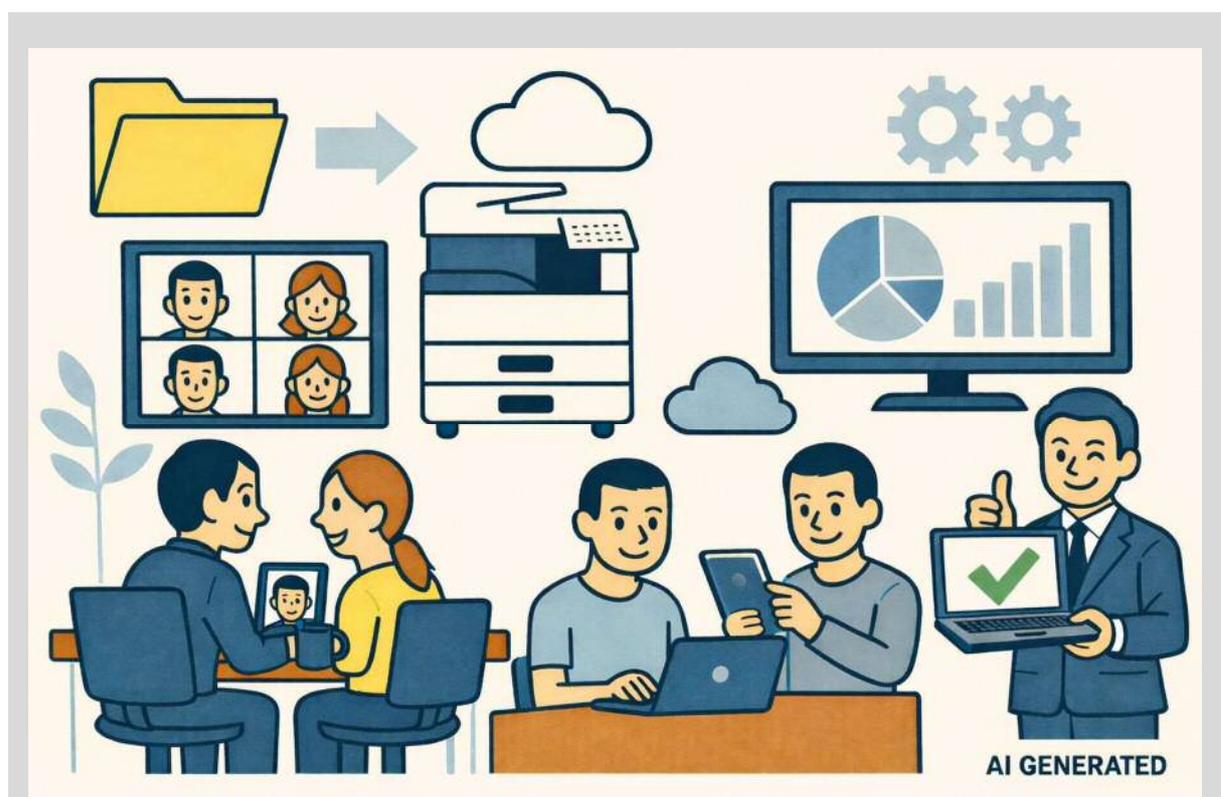


目 標

導入実施【2030年度までに順次実施】

紙媒体により作成・管理している書類のデジタル化を進めるとともに、IOTやAIを活用したデータ収集・分析、定例業務の自動化やオンライン会議の定着化などの業務の効率化に取り組むことにより、生産性の向上を図ります。

また、勤怠管理システムを導入し、労務管理に関する業務プロセスの省力化を図ります。



視点3 経営基盤

持続可能な組織づくり

【取組項目⑩】

人材の確保と育成の推進

		目 標	計画的な人材確保【毎年度】
-----------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------	-----	---------------

持続可能な組織とするため、職員の計画的な採用とともに、ナレッジマネジメントによる効率的な人材育成に取り組めます。

1 次世代職員の採用

- ✂ 逆ピラミッド型の職員構成を是正し、今後の事業展開を見据えた持続可能な組織とするため、次世代を担う職員の採用を計画的・継続的に実施します。

2 職員の人材育成

- ✂ ベテラン職員から次世代職員へのノウハウ等の継承を図るため、ナレッジマネジメントによる効率的な人材育成に取り組めます。
- ✂ 今後の公社経営を見据えたより計画的な研修内容にブラッシュアップし、職員の知識・スキルの向上に取り組めます。



※ナレッジマネジメント：職員が持つ知識やノウハウなどを組織全体で蓄積・共有し活用することで、生産性の向上や効率的な人材育成等を図る経営手法。

視点3 経営基盤

財務の安定化

【取組項目⑪】

三ヶ根山スカイラインの経営改善



目標

イベント開催【毎年】

地元市町と連携し多彩なイベントを開催するなど収入増加に取り組むとともに、維持管理の内容を精査し経費削減に繋がります。

また、同時に県道移管について県・地元市町と協議のうえ取り組みを進めます。



視点3 経営基盤

健全な財務基盤の維持

【取組項目⑫】

償還準備金の着実な積み立て



目標

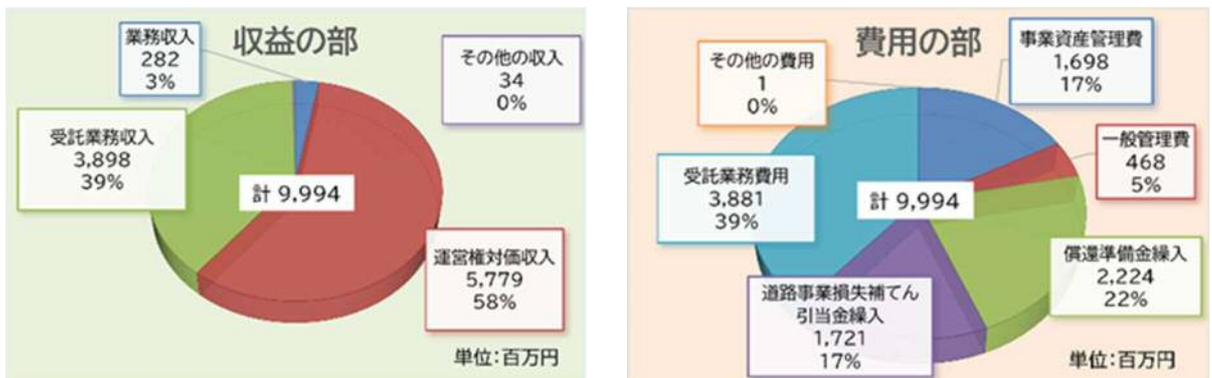
2030年度時点で計画比100%維持

収入と支出の差額を道路建設費等の償還財源として積み立てる償還準備金は、2025年3月末現在、計画以上に積み立てています。

今後も着実に有料道路事業を進め、償還計画どおり積み立てていきます。

■現在の収支状況

2024年度決算では、運営権対価等収入が収益の約58%を占めており、費用では大規模災害等の不測の事態に備える損失補填引当金繰入額と道路建設費等の返済にあてる償還準備金繰入額が全体の約39%を占めています。



※受託業務には西知多道路建設受託業務などが含まれている

■これまでの推移

2025年3月末現在、計画比約109%の償還準備金[累計額]を積み立てています。

